

Today's Mission

第一夜

①こんな夢を見た。

②腕組みをして枕元に座っていると、あお向きに寝た女が、静かな声でもう死にますと言う。女は長い髪を枕に敷いて、輪郭の柔らかなうりざね顔をその中に横たえている。真っ白な頬の底に温かい血の色がほどよく差して、唇の色はむろん赤い。到底死にそうには見えない。(中略)。自分は、いつ会いに来るかねときいた。「日が出るでしょう。それから日が沈むでしょう。それからまた出るでしょう、そうしてまた沈むでしょう。— 赤い日が東から西へ、東から西へ落ちてゆくうちに、— ③あなた、待っていますか？」自分は黙ってうなずいた。

(夏目漱石『夢十夜』)

夏目漱石第2弾。ある先生から紹介していただき、今回の題材にしました(ご協力ありがとうございました!)。文章の始まりが特徴的なこの作品。タイトルにある通り、「一夜」から「十夜」まで物語があります。気になる人は、読んでみてください。



自分が作った英語を投稿したい人は、下記のアドレスまで！
休校中課題や+αで取り組んでいる学習の質問でもOKです。

徒然なるままに...

メール、ライン、ツイッターなど、さまざまなメディアやSNSが発展する中、“文字を書く”という習慣が段々と少なくなってきたように感じる今日この頃。確かに、直接書くよりも手軽で時間もかかりません。

特に、“手紙を書く”という機会はかなり減っているのでは…？私は、手紙を大切にしています。手紙を読むと、その人自身が書いた文字を通して、より想いが伝わってくるように感じます。私自身も、手紙を書くときは1文字1文字に私なりの想いを込めて書くようにしています。会話とはまた違った、生きたコミュニケーションを味わうことができる瞬間。“手紙”という文化に、思いをはせてみませんか？

[35 回生投稿窓口・35 回生質問受付窓口 takatsuka2019@gmail.com](mailto:takatsuka2019@gmail.com)

(件名に、学年、組、番号、名前、用件を必ず書いて送信。: 気の向くままに vol.0 参照)

(投稿・質問以外のメールは固くお断りします)

(休校期間が終了次第、本メールは閉鎖します)

気の向くままに… ～英語で表現コーナー～ vol.4 へ続く

編集 35 回生学年団 3-1 K.M